

教科名	技術・家庭科	校種	中学校
-----	--------	----	-----

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
2年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
3年	技術・家庭	必	1	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施

科目名 (教科名)		技術家庭 (技術家庭)			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を身に付ける。				
学期	授業の項目		内容		
1 学期	<家庭分野> A編 家族と家庭生活 1章 家族・家庭や地域とのかかわり C編 消費生活・環境 1章 私たちの消費生活 2章 消費者の権利と責任  <技術分野> 4編 情報の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の一員としてできること</li> <li>・家族関係をよりよくする方法</li> <li>・家庭生活と地域のかかわり</li> <li>・買い物の法律的な意味</li> <li>・いろいろな販売方法や支払い方法</li> <li>・消費者トラブルについて</li> <li>・消費者を支える仕組み</li> <li>・消費者の権利と責任</li> <li>・情報の技術とは</li> <li>・情報のデジタル化</li> <li>・情報通信ネットワークの仕組み</li> <li>・情報モラル</li> <li>・情報セキュリティ</li> </ul>		
	2章 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決  <家庭分野> B編 衣食住の生活 6章 私たちの住生活  1章 健康と食生活 2章 何をどれだけ食べたらよいか		<ul style="list-style-type: none"> <li>・双方向性のあるコンテンツとは</li> <li>・問題の発見と課題の設定</li> <li>・コンテンツの構想</li> <li>・コンテンツのプログラム制作～クラス伝言板システムの制作</li> <li>・問題解決の評価、改善 修正</li> <li>・住まいの働き</li> <li>・家族が暮らしやすい住まい方</li> <li>・健康を守る室内環境の整え方</li> <li>・家庭内事故の防止</li> <li>・災害に備えた安全な住まい方</li> <li>・食事の役割、健康に良い食習慣</li> <li>・食品に含まれる栄養素、1日分の献立作成</li> </ul>		
3 学期	3章 調理と食文化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の選択と購入</li> <li>・調理の基礎</li> <li>・肉・魚・野菜の調理</li> <li>・地域の食文化</li> </ul> ※生徒の実態、コロナ感染拡大状況に応じて内容、進捗が変更されることがある。		
評価の 観点	【知識・技能】 40 (%)	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・実技テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【思考・判断力・表現】 30 (%)	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・ワークシート</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【主体的に学習に取り組む態度】 30 (%)	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・授業態度</li> <li>・課題提出</li> </ul>		
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価方法 : 定期試験における成績状況と製作品・提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。</li> <li>● 割合 : 定期試験 50 % 平常点 50 %</li> </ul>				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書 : 技術・家庭「家庭分野」 (教育図書)      新しい技術・家庭「技術分野」 (東京書籍)</li> <li>● 問題集 : なし</li> <li>● 副教材 : なし</li> </ul>				

科目名 (教科名)		技術家庭 (技術家庭)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を身に付ける。				
学期	授業の項目		内容		
1学期	<技術分野> 2編 生物育成の技術 1章 生物育成の原理・法則と仕組み  2章 生物育成の技術による問題解決  3章 社会の発展と生物育成の技術  1編 材料と加工の技術 1章 情報の技術の原理・法則と仕組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物育成の技術とは</li> <li>・作物の育成環境を調節する技術</li> <li>・作物の成長を管理する技術</li> <li>・動物を育てる技術</li> <li>・水産生物を育てる技術</li> <li>・問題の発見と課題の設定</li> <li>・生物の育成計画</li> <li>・成長段階に合わせた適切な育成・問題解決の評価、改善修正</li> <li>・生物育成の技術の最適化</li> <li>・これからの生物育成の技術</li> </ul>		
	2章 材料と加工の技術による問題解決  3章 社会の発展と材料と加工の技術  3編 エネルギー変換の技術 1章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材、金属、プラスチックの特性</li> <li>・材料に適した加工方法</li> <li>・丈夫な製品を作るために</li> <li>・問題の発見と課題の設定</li> <li>・製作品の構想、設計、計画</li> <li>・木材加工実習</li> <li>・問題解決の評価、改善 修正</li> <li>・材料と加工の技術の最適化</li> <li>・これからの材料と加工の技術</li> </ul>		
3学期	2章 エネルギー変換の技術による問題解決  3章 社会の発展とエネルギー変換の技術		<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電のしくみと特徴</li> <li>・電気を供給する仕組み</li> <li>・電気回路について</li> <li>・電気機器を安全に使用するための技術</li> <li>・問題の発見と課題の設定</li> <li>・災害対応多機能ラジオの製作実習</li> <li>・問題解決の評価、改善 修正</li> <li>・エネルギー変換の技術の最適化</li> <li>・これからのエネルギー変換の技術</li> </ul> ※生徒の実態、コロナ感染拡大状況に応じて内容、進捗が変更されることがある。		
評価の観点	【知識・技能】 40 (%)	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・実技テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【思考・判断力・表現】 30 (%)	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・ワークシート</li> <li>・作品製作</li> </ul>		
	【主体的に学習に取り組む態度】30 (%)	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・授業態度</li> <li>・課題提出</li> </ul>		
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価方法 : 定期試験における成績状況と製作品・提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。</li> <li>● 割合 : 定期試験 50 % 平常点 50 %</li> </ul>				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書 : 新しい技術・家庭「技術分野」(東京書籍)</li> <li>● 問題集 : なし</li> <li>● 副教材 : 技術・家庭ノート「技術分野」(新学社)</li> </ul>				

科目名 (教科名)	技術家庭 (技術家庭)				
学年	3	単位数	1	必修・選択・展開	必修
目的	生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を学ぶ。				

学期	授業の項目	内容	
1 学期	<家庭分野> C 衣生活・住生活と自立 第2章 わたしたちの衣生活  第3章 生活を豊かにする工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の選択</li> <li>・衣服の手入れ</li> <li>・持続可能な社会を目指して</li> <li>・生活を豊かにする製作・・・基礎縫いティッシュマスクケース エコバック きんちゃく袋</li> </ul>	
2 学期	<家庭分野> A 家族・家庭と子どもの成長 第2章 幼児の生活と家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の心身の発達、幼児の生活の特徴</li> <li>・幼児と遊び、幼児の遊びと発達のかかわり</li> <li>・幼児の知育おもちゃの製作・・・テディベア</li> </ul>	
3 学期	<家庭分野> D 身近な消費生活と環境 第1章 わたしたちの消費生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会をめざして (環境にやさしくらしの実践)</li> <li>・生活を豊かにする製作・・・エコたわし (かぎ針編みの基礎)</li> </ul>	
評価の 観点	【知識・技能】 40 (%)	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・実技テスト ・小テスト</li> <li>・作品製作</li> </ul>
	【思考・判断力・表現】 30 (%)	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・ワークシート</li> <li>・作品製作</li> </ul>
	【主体的に学習に取り組む態度】 30 (%)	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・授業態度 ・課題提出</li> </ul>
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価方法：定期試験 (学期1回) と平常点 (提出物・実習・実験態度など) で各学期の成績を算出する。</li> <li>●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。</li> </ul>		
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科書：技術・家庭 「家庭分野」 (教育図書) 「技術分野」 (東京書籍)</li> <li>●問題集：なし</li> <li>●副教材：なし</li> </ul>		

※生徒の実態、コロナ感染拡大状況に応じて内容、進度が変更されることがある。